

連作障害ブロックダブル

【目的】

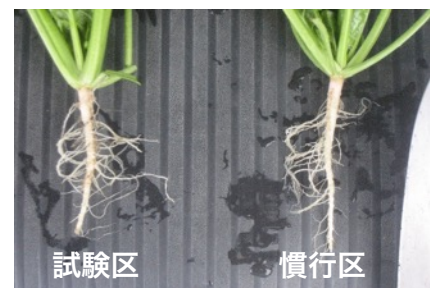
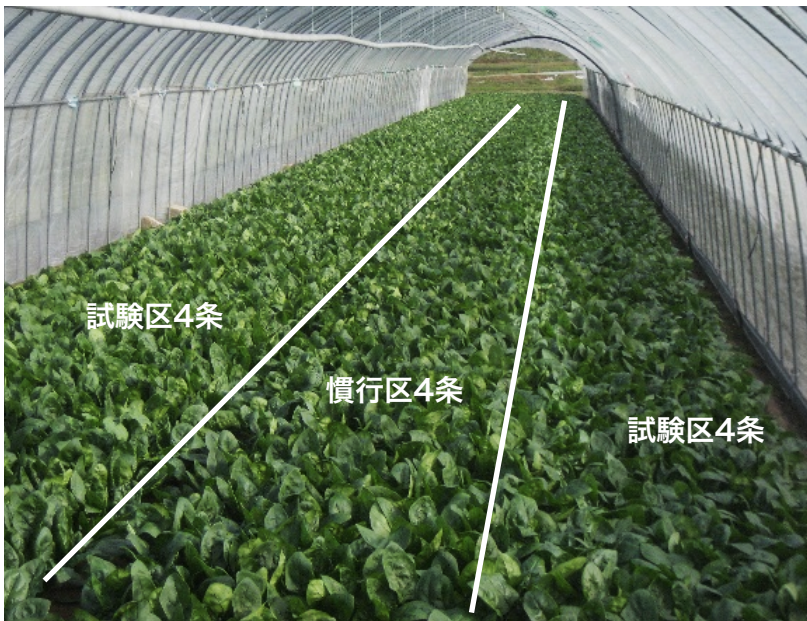
近年、温暖化の影響で夏季におけるホーナ生産が一段と不安定化が進んでいる中、灌水技術と遮光資材の取り組みは普及所との連携でいち早く対応しているところだが、「土壌改良材」での取り組みが遅れていることに着目し、吉城ホーナ部会研究会に依頼し試験を行う。

【試験者】

吉城ホーナ部会研究会 小谷・宇都宮・前田・築山・道上

【結果】

- ①土壌消毒後（2作目）については梅雨明けごろの収穫で、慣行区と比較して差は感じられない。（全員）
- ②3作目は一番暑い時期（7/中～8/中）なので「立枯れ」が発生しないことを期待した。
 - 1.立枯れは慣行区に比べて少ないが、生産者の灌水管理により根腐れした。
 - 2.慣行区に比べ収量・品質は良く、安定性がある。
 - 3.慣行区は4～5作目は土壌消毒の効果が切れ始め立枯れが目立ってくるが試験区はすこぶる安定し、生育も早く一斉に収穫出来た。



試験区は根張りも非常に良い。根の出方が均一で、毛細根が多い。そのためか、上部の葉も大きい。

【評価】

本資材の投入において、栽培生産に安定感が増した。
使用して判る資材。

以上



連作障害ブロックダブル